

城北



令和7年9月1日現在
 総世帯数 3,793
 総人口 7,684
 男 3,636
 女 4,048



7月30日にひろば主催で最近流行の、フィンランド発祥のモルック体験会が開かれました。

会場には小中学生を含む幅広い年代の22名の皆さんが集まり、信大のサークル「まっぼつくり」の3名の皆さんの指導のもと、4チームに分かれて熱戦を繰り広げました。競技内容は白樺が材料のモルック棒を、1から12の番号が付いた目的のスキットル目掛けて下手投げします。まずAチーム1名が投げて倒れた本数が点数となる



り、倒れた場所にそのままの立てます。
 次にBチームが高得点的をめがけて投げ、1本に当たった時はその目的の点数になり、2本以上倒れた時は目的の点数となります。得点を積み重ねて先にちょうど50点になったチームの勝ちになり、50点を越した場合は25点に逆戻りして、やり直しになるルールです。50点のピタリ賞はなかなか難しく、各チームともチームワークよく大声で応援しながら、狙いを定めて健闘しあつた体験会でした。皆さんも気軽に楽しんでみませんか。

城北地区人権啓発推進協議会主催
 「等話」
 ～平等に問いかけあう
 会話のキャッチボール～

8月4日に人権啓発推進協議会主催の「等話」についての講習会を32名の方と受講してきました。長野県シニア大学専門コース講師でもある松田道雄尚綱学院大学教授のビデオを、長野県長寿社会開発センターの大塚佳織さんが進行役として進める方法で講義を受けました。等話が生まれるきっかけはコロナ禍で対面で話す授業ができず、大学のゼミの学生と長野のシニア大学の受講生とのオンライン講習を進めていく中で生まれてきました。初めての会話はシニアの方が主導権を握りがちになり、そこから「どちらかが一方的に話すのではなく、問いかけ合う会話」「時間も平等に」「気軽に会話のキャッチボール」をしていく中で、会話のやり取りから人間関係を築いていくのを目的とした等話という手法が出来てきました。



等話を進めていく中で心がけとして、①今、目の前の人との出会いに感謝する。②お互い話す時間が平等になるよう、心がける。③自己完結せず、短く話して、問いかける。

城北福祉ひろば 人気の「ちりめん講座」紹介

城北公民館内には、絵画の他にも折々の季節にあつた展示物が飾られています。

ちりめん講座は、講師の松田榮子さんの公民館に飾った作品を見た方々から「作ってみたい」という要望が集まり、開かれるようになりました。

松田さんはハワイアンキルト、編み物、書道、水墨画と多彩な趣味を楽しんでおられます。

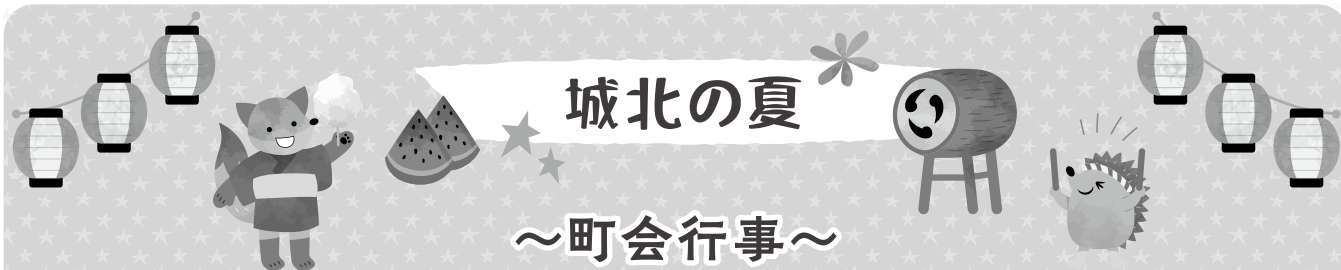
人気の理由のひとつでしょう。参加された恵理子さんは「金魚が好きなので申し込みました。かわいい大正時代のちりめんは手触りもよく、細かい作業に集中できて楽しかったです」と感想を寄せてくださいました。

す。意外なことに針を持つようになったのは、子育てが終わってからで、学生時代は家庭科は得意ではなかったそうです。



▲実習体験を行う参加者

ていました。
 等話を進めるにあたっては、良いところを出していきながら、話のキャッチボールをしていくと色々な課題の解決法も見つけやすくなっていきます。
 話すことで、人との関係性が生まれる。聞くことで、相手を受け入れ自分自身の視野がひろがる。という話で講習が終了しました。



▲田町児童遊園ラジオ体操



▲徒士町・旗町子ども会花火会



▲徒士町 セタまつのセタ市



▲蟻ヶ崎東子ども夏祭り▶



▲蟻ヶ崎台 ラジオ体操



▲蟻ヶ崎北 青山様・ぼんぼん



▲蟻ヶ崎北 夏祭り



▲蟻ヶ崎東 青山様・ぼんぼん



～公民館・子ども会育成会事業～



▲ 科学講座

ICメロディーを使って工作・実験をしよう!



▲ 公民館に泊まって遊ぼう!

